

「手を動かしてまなぶ 続・線形代数」(第1版1刷) 正誤表  
(2024年6月13日版)

場所	誤	正
カバーそで	相対	双対
全体の地図	②	②, ④
全体の地図	④	⑤
全体の地図	⑤	⑥
全体の地図	⑥	⑦
p. 27, 上から7行目	$M_n(\mathbf{C})$	$M_{n_j}(\mathbf{C})$
p. 54, 上から1行目, 3行目	$W_1(\lambda_1)$ (4箇所)	$W(\lambda_1)$
p. 72, 上から4行目	さらに,	さらに, $E'$ を $A_1$ と同じサイズの単位行列とし,
p. 72, (7.13), (7.14) 式	1 (3箇所)	$E'$
p. 72, (7.13), (7.14) 式	$\mathbf{0}$ (3箇所)	$O$
p. 77, 上から6行目	$M_n(\mathbf{R})$	$M_n(\mathbf{C})$
p. 80, 下から9行目	$\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$	$\mathbf{b}, \mathbf{x}_2$
p. 89, 上から1行目	$\sum_{l=1}^{2k+2k'} 2^{k+2k'} C_l N^l (N')^{2k+2k'-l}$	$\sum_{l=0}^{2k+2k'} 2^{k+2k'} C_l (aN)^l (bN')^{2k+2k'-l}$
p. 101, (*) 式	$\sum_{l=1}^{k-1} k C_l S^l N^{k-l}$	$\sum_{l=1}^k k C_l S^{k-l} N^l$
p. 101, 下から8行目	${}_k C_{k-1}$	${}_k C_1$
p. 105, (10.10) 式	$f(A)$	$P^{-1}f(A)P$
p. 127, (12.13) 式	$\frac{1}{n-1} t^{n-1} (J(0; n))^{n-1}$	$\frac{1}{(n-1)!} t^{n-1} (J(0; n))^{n-1}$
p. 130, (12.28) 式	$t^k$ (2箇所)	$\frac{1}{k!} t^k$
p. 136, 上から2行目, 3行目	$t^k$	$\frac{1}{k!} t^k$
p. 146, 下から3行目	$\mathbf{y} \in V$	$\mathbf{y} \in W$
p. 158, 上から5行目	$X^*Y$	$XY^*$
p. 172, 上から2行目	線形同型写像	全単射
p. 172, 上から2行目	手のマーク	削除する.
p. 174, 上から1行目	$\mathbf{p}_1, \dots, \overline{\mathbf{u}}_s$	$\{\mathbf{p}_1, \dots, \overline{\mathbf{u}}_s\}$
p. 179, (16.28) 式	$\frac{1}{\ \mathbf{p}'_1\ }$	$\frac{1}{\ \mathbf{p}'_1\ } \mathbf{p}'_1$
p. 186, 下から7行目	$b(\mathbf{a}_i, \mathbf{a}_j)$	$b(\mathbf{a}_i, \mathbf{b}_j)$
p. 209, 下から11行目	$g(\mathbf{0}) = \mathbf{0}$ をみたす	削除する.
p. 220, 図 20.1 (e)	$x$	$y$
p. 220, 図 20.1 (e)	$y$	$x$
p. 250, 上から8行目, 下から3行目	$\mathbf{a}_{m+1}, \dots, \mathbf{a}_n$	$[\mathbf{a}_{m+1}], \dots, [\mathbf{a}_n]$
p. 258, 上から8行目	線形	1次
p. 258, 上から10行目	$V \times W$	$V^* \times W$
p. 261, 上から3行目	さらに, ... (手のマーク).	削除する.
p. 268, 図 24.1	左側の「 $V_1 \otimes \dots \otimes V_n$ 」	$V_1 \times \dots \times V_n$
p. 272, 上から11行目	$\mathbf{x}_i \otimes \mathbf{x}_j + \mathbf{x}_j \otimes \mathbf{x}_i$	$\mathbf{a}_i \otimes \mathbf{a}_j + \mathbf{a}_j \otimes \mathbf{a}_i$
p. 274, 上から2行目	$\mathbf{x}_i \otimes \mathbf{x}_j - \mathbf{x}_j \otimes \mathbf{x}_i$	$\mathbf{a}_i \otimes \mathbf{a}_j - \mathbf{a}_j \otimes \mathbf{a}_i$
p. 288, 解 14.5	$X^*Y$	$XY^*$
p. 288, 解 14.5	$(k, k)$ 成分は $\sum_{j=1}^m \overline{x_{jk}} y_{jk}$	$(j, j)$ 成分は $\sum_{k=1}^n x_{jk} \overline{y_{jk}}$
p. 288, 解 14.5	$Z \in M_{m,n}(\mathbf{C})$	$Z \in M_{m,n}(\mathbf{C}), c \in \mathbf{C}$

その他

○ p. 54, 定理 5.3 : 文末に次の脚注を加える。(以下, 脚注番号をずらす.)

$W_1 \cap W_2$  は  $V$  の部分空間である [→ [藤岡] p. 132, 問 13.2 (1)].

○ p. 172, 図 16.1 : 見出しを「全単射」に変更し, 次と差し替える.

- $X, Y$  : 空でない集合
- $f : X \rightarrow Y$  : 写像

$f$  : 全射  $\stackrel{\text{def.}}{\iff}$  任意の  $y \in Y$  に対して,  $y = f(x)$  となる  $x \in X$  が存在

$f$  : 単射  $\stackrel{\text{def.}}{\iff} x, x' \in X, x \neq x'$  ならば,  $f(x) \neq f(x')$

$$f: \text{全単射} \underset{\text{def.}}{\iff} f: \text{全射かつ単射}$$

○ p. 172, 脚注：冒頭に次を追加する.

$\mathbf{x}$  から  $\bar{\mathbf{x}}$  への対応が定める写像を  $f: W(\lambda) \rightarrow W(\bar{\lambda})$  とすると,  $f(\mathbf{x} + \mathbf{y}) = f(\mathbf{x}) + f(\mathbf{y})$ ,  $f(c\mathbf{x}) = \bar{c}f(\mathbf{x})$  ( $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in W(\lambda)$ ,  $c \in \mathbf{C}$ ) がなりたつ (手のマーク). このような  $f$  を **共役線形写像**という. また,